

平成28年度第2回富山市入札監視委員会の概要

開催日時・場所	平成29年2月23日（木）午後2時から午後4時 富山市役所第3委員会室
委員 (委員数5名) 出席4名	委員長 古田俊吉（富山大学名誉教授） 委員 新畑彬（元大沢野町助役） 委員 大石貴之（弁護士） 委員 彼谷環（富山国際大学教授）
欠席1名	委員 猿田淳子（税理士）
次第	1 開会 2 富山市の入札・契約手続の運用状況について ・富山市の建設工事等の入札・契約制度について ・入札・契約事務の改善について ・指名停止等の運用状況について ・入札・契約方式別の発注工事及び落札率について 3 審議対象工事の抽出について 4 抽出工事の審議 5 審議結果のまとめ 6 閉会
対象期間	平成28年4月1日から平成28年9月30日まで
抽出工事 (落札率)	10件（対象工事件数477件） ① 一般競争入札（4件） ・水橋中学校体育館改築及び渡り廊下耐震補強機械設備工事（98.86%） ・布瀬公園施設整備（その2）工事（95.68%） ・富山公共下水道向新庄処理分区藤木新町地区下水管改築（その1）工事（99.05%） ・粟巣野第2配水池外電気設備更新工事（99.72%） ② 指名競争入札（5件） ・準用河川中川護床工事（85.69%） ・上瀬地区急傾斜地崩壊防止工事（88.18%） ・林道大谷川線法面改良工事（97.27%） ・太郎丸西町一丁目水門補修工事（96.12%） ・不二越幹線配水管廃止（その1）工事（99.40%） ③ 随意契約（1件） ・富山市婦中体育館改修工事（100.00%）
審議の概要	別紙のとおり
委員会の意見	平成28年度上半期分の富山市発注の建設工事に係る入札・契約については、概ね適正に行われていたと判断する。

別 紙

意見・質問	回 答
①「布瀬公園施設整備（その２）工事」において、総合評価落札方式の評価項目に「チーム富山市」とあるが、どういったものか。	①富山市で、地球温暖化防止対策として行っている取り組みである。Co2削減には市民1人1人の行動が大切であるため、家族や職場などでチームを組み、目標を立て、その活動を市へ報告してもらうという仕組みで、「チーム富山市」に参加している場合には、5点を加点している。
②総合評価落札方式の価格以外の評価結果が入札者間であまり差が出ないのであれば、今後評価項目の見直しの検討も必要なのではないか。	②必要に応じて見直しを検討していきたいと思う。
③「水橋中学校体育館改築及び渡り廊下耐震補強機械設備工事」において、総合点数を930点未満とするのはなぜか。	③今回の工事は、1,000万円以上2,500万円未満の管工事で、発注標準によると700点以上930点未満の業者に入札参加資格があるが、930点以上の業者も参加させると、これらの業者ばかりが落札することになりかねないからである。設計金額によって、発注標準にも段階を設けている。
④「不二越幹線配水管廃止（その１）工事」においては、入札方式を一般競争入札にすることもできたかと思うが、指名競争入札にされた理由は何か。	④履行場所に近い業者で、発注標準による業者数を指名することが可能であったため、指名競争入札とした。
⑤「太郎丸西町一丁目水門補修工事」における指名数は発注標準によるものか。	⑤業種が機械器具設置でランク格付設定がなく、また500万円未満の工事であったので、基準である6者に2者加える配慮をし、8者を指名している。
⑥「上瀬地区急傾斜地崩壊防止工事」における指名業者の多くは所在地が婦中地域だが、1者だけ大沢野地域である理由は何か。	⑥発注標準により、10者指名する必要がある、履行場所に近い婦中地域の業者で10者指名しなかったのだが、1者足りなかったため、技術力等のある大沢野地域の業者から1者を指名した。
⑦「富山市婦中体育館改修工事」は特命随意契約で工事費を低減できるとのことだが、落札率100%で、設計金額と入札価格が同じなのは、予定金額が厳しく設定されていたということか。	⑦設計担当課において、ご指摘の点も考慮し、予定金額を厳しく設定したものと解釈している。